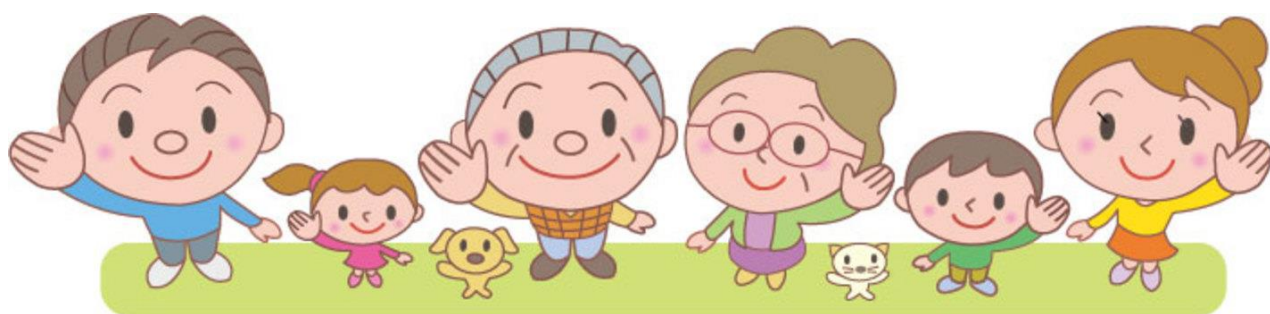


ふだんの
くらしの
しあわせ
福祉“共”育



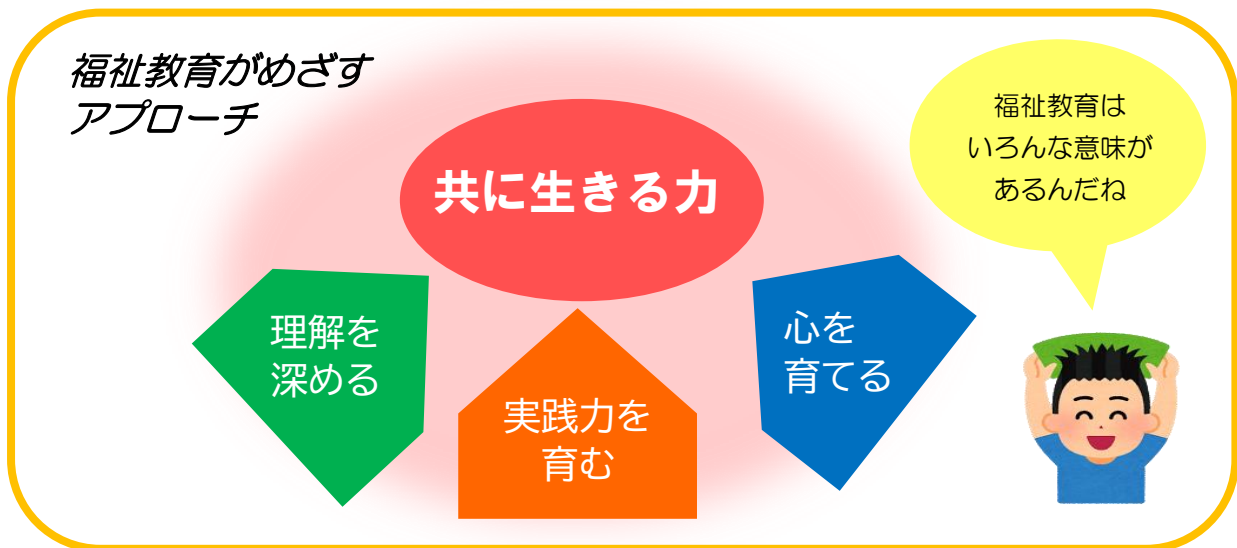
福祉教育を通じて、一人ひとりが
生きる喜びを感じることができるように、
「共に生きる力」を育むことを目標とします。

1. 「ふ く し」ってなんだろう

『福祉』は「**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ」を叶えることです。「自分にできることは何か？」を考えたり、そのために実際に行動していくことです。

また、福祉は自分のことだけでなく、周りの人のことも大切に思い、一人ひとり、それぞれの考えや生き方を尊重して「共に生きる力」を培うことであるといえます。

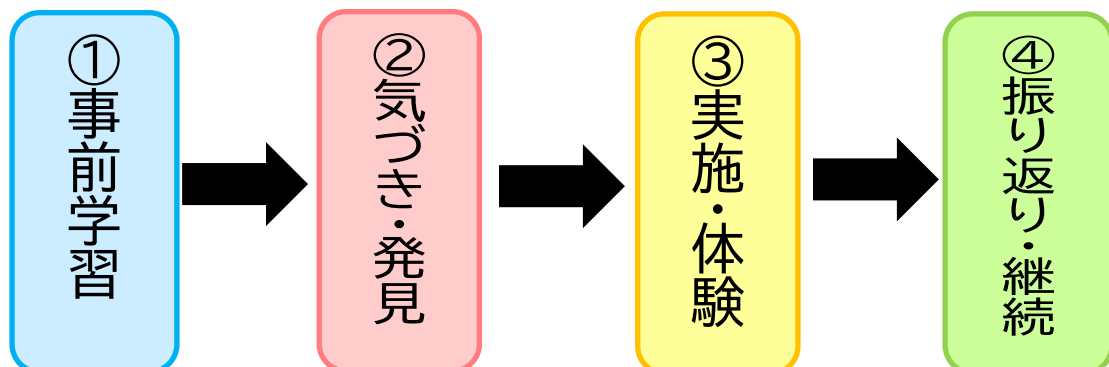
人間関係が希薄になってきたと言われる現代社会の中で、普段の暮らしの中でちょっとした見守りや気遣いなど、さりげないことが“ふくし”につながっています。自分が住んでいる地域にはいろいろな人が暮らしていることを理解し、普段から自分自身や周りにいる人のことを気かけ、そこに住んでいるおとなも子どももみんなが笑顔で幸せに暮らしていくために、自分たちができることやお互いにできることを実践しながら“共に”生きていく気持ちを育んでいきましょう。



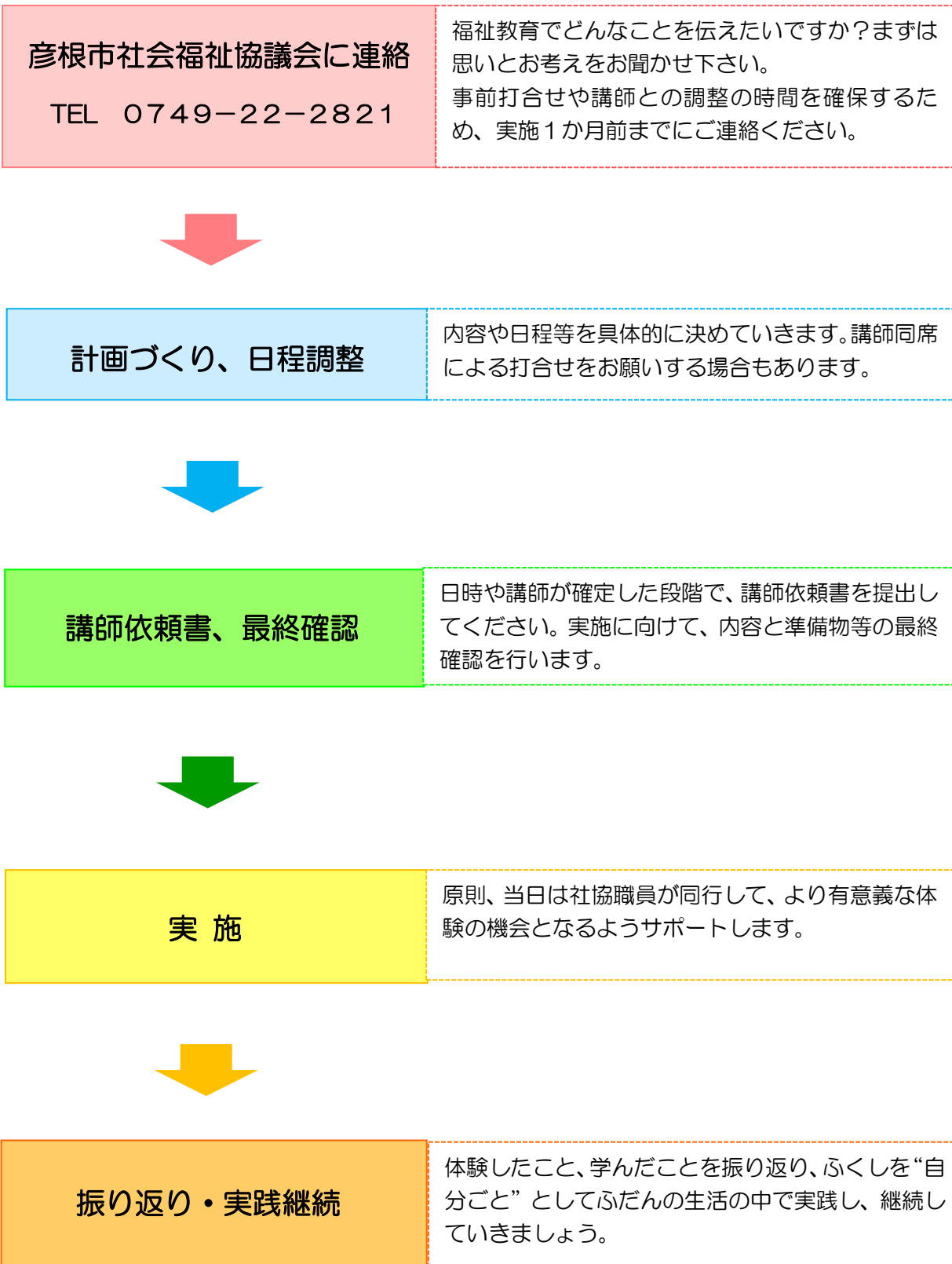
2. 福祉教育がめざすもの

福祉教育は、一人ひとりが地域に住む住民として気づき、学び合い、実践につながるものであるといえます。

福祉教育では以下の4つのプロセスを重視して進めていきます。



3. 福祉教育実施の流れ



4. 福祉教育プログラムメニュー

No.1 ふくしとは？（福祉体験学習前の導入） 講師：彦根市社会福祉協議会

“福祉”と聞くと、障がい者や高齢者、困っている人だけのことだとか、自分とは関係がない他人事（ひとごと）だと考えがちです。そうではなくて、「ふくし」は「ふだんのくらしのしあわせ」を実現することであり、我が事（わがこと）として考え、地域の人々と一緒に取り組むことがたいせつです。「地域福祉は福祉教育ではじまり、福祉教育でおわる」と言われています。福祉教育を通じて、こどももおとなも地域に目を向け、自分ができることはなんだろうと考えるきっかけとなる基本の学習を行います。

準備をお願いする物：

パソコン、プロジェクター、
スクリーン

私と小鳥と鈴と（金子みすず）

私が両手を広げても お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面を早くは走れない。
私がからだをゆすっても、きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のようにたくさんの歌は知らないよ。
鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんな
いい。

（「金子みすず童謡集」角川春樹事務所、ハルキ文庫より）

みんな違ってみんないい！人間は、一人ひとりの性格や能力が
違って当たり前。でもかけがえのない「生命の尊さ」は同じ。



31

No.2 アイマスク体験（視覚障がい理解） 講師：彦根市社会福祉協議会

タオルなどで目隠しをして文字を書いたり、手で触って形を感じたり、視野を狭くして文章を読んだりすることにより、見えない／見えにくいという体験をします。シャンプーボトル側面の触覚認識表示や、音響式信号機など、日常生活の工夫についても学び、理解を深めます。



準備をお願いする物：

タオル、手ぬぐい、アイマスクなど
（目隠し用）

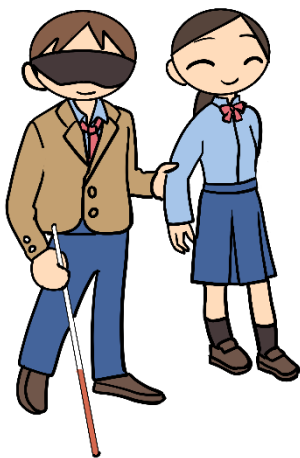


エレベーターのボタン



シャンプーボトル

No.3 ブラインドウォーク（視覚障がい理解） 講師：彦根市社会福祉協議会



©網アミ

二人一組になって、一人が目隠しをした状態になり、もう一人が歩行の介助や誘導をします。

目の見えない人が安全に外出できるよう、ガイドヘルプの体験を通して、視覚障がいのある人への適切な接し方を学びます。

歩行中の安全確保のため、階段やコーナーなど、各位置で見守りをする人員が必要です。

準備をお願いする物：

タオル、手ぬぐい、アイマスクなど
（目隠し用）

No.4 盲導犬との暮らし（視覚障がい理解）

講師：滋賀県盲導犬使用者の会「びわこハーネスの会」 山野 ひろみさん

見えない人の日常生活や、盲導犬の役割、接し方の注意事項などについてお話を聞きます。当日は、盲導犬を同伴されます。依頼者による送迎、またはタクシーを手配していただくようお願いいたします。日時が決定したら、送迎時間や準備物等の確認のため、講師に直接、連絡をとってください。



準備物をお願いするもの：長机、椅子、マイク、DVD プレーヤー



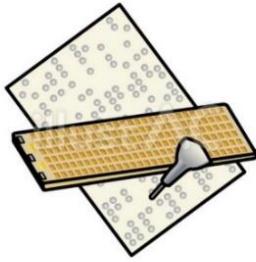
<講師からのメッセージ>

目が見えなくても楽しく夢のある生活をしています。「ほんと？どんなふう？」。見えない部分を盲導犬が、皆様方の善意のサポートが、私たち視覚障がい者の生活をより豊かにしています。目が見えないとできないのではなく、見えない部分のサポートがあればできるのです。そうした話を聞いていただいて障がいを理解していただき、誰もが明るく楽しい生活が送れることを願っています。

No.5 点字体験（視覚障がい理解） 講師:彦根市点字サークル

点字の成り立ちを知り、点字を打つ体験をします。

事前に、県立視覚障害者センターから点字定規を人数分借用すると同時に、点字用紙を人数分購入（1枚5円）してもらう必要があります。



<講師からのメッセージ>

点字は視覚に障がいのある方にとって情報を得るための大切な文字です。

1マス、6点（縦3点、横2点）の組み合わせで表される触読文字です。点字の成り立ちや、ルールを知って、点字を打ったり、触ったり、読んだりし、身近にある点字に関心を持ってもらい、視覚に障がいのある方のことを知ったり考えたりするきっかけになればと思います。

No.6 手話体験（聴覚障がい理解） 講師:彦根市聴覚障害者協会



聞こえない人が、日常生活でどのような工夫をしているか、道を歩いているときや災害時などにどのような困りごとがあるかなど、当事者の方からお話を聞きます。「聞こえない人に伝えてみよう」というゲームなどで、相手に伝えたい／知りたいというコミュニケーションの本質を深めるため、2コマの時間をとっていただくことをお勧めします。

打合せと学習当日には、協会から市障害福祉課へ依頼して、手話通訳が同席します。

<講師からのメッセージ>

私たち「聞こえない人」また「聞こえにくい人」は、見た目にはわからない為、気づかれにくいですが、みなさんのごく身近にいます。同じ社会で暮らしています。そんな私たち聴覚障がい者はどんなことに困ったりするか、また、聞こえない人の大切な言葉である、手話をぜひ知ってください。

みなさんと手話で挨拶ができると嬉しいです。そして手話以外にお話しする方法も、あります。

お互いが笑顔でいられるような社会を、ともに作っていきましょう！



No.7 車椅子体験（身体障がい理解） 講師：彦根市身体障害者更生会

車いすの構造、各部の名称、使い方を学び、実際に車いすに乗る体験と介助者側としての役割を体験します。3人一組になり、車椅子に乗る／介助する／周囲の安全に目配りするという役割を、交代で体験します。当日は実施30分前に集合し、コースの設営を行います。車椅子が走行しづらい段差や狭い道、坂道などを想定してコースをつくります。当日が悪天候の場合は体育館など屋内で実施できる場所を確保しておくかと安心です。

原則前日に車椅子を彦根市社協まで取りに来ていただき、体験学習後、返却をお願いします。

<講師からのメッセージ>

車椅子を安全に使用していただくため、まず各部位の役割を知ってもらいます。車椅子を使用されている障がい者や高齢者の気持ちになって乗り、日頃使用されている方が大変であることを理解してもらいます。その体験をもとにして、日常における介助や、緊急時の避難を手助けしていただくための指導をしています。



No.8 認知症サポーター養成講座（高齢者理解） 講師：彦根市認知症 HOT サポートセンター

2025年には65歳以上の5人に1人が認知症になるといわれており、誰もがなる可能性のある脳の病気です。認知症について正しく理解し、同時に認知症の人への接し方について学びましょう。そして、認知症になっても安心して暮らせるまち、ひこねをみんなで作っていきましょう。小学校4年生以上の方に受講していただけます。

<講師からのメッセージ>

小中学生の方には、絵本の読み聞かせや寸劇（ロールプレイ）、DVDの視聴を取り入れたり、話し合いをしたりしながら、認知症について関心をもって、わかりやすく学んでいただけるよう、工夫をしています。



No.9 高齢者の模擬体験（高齢者理解） 講師：彦根市社会福祉協議会

高齢者模擬体験セットをつけて、手足の動かしにくさ、見えにくさ、聞こえにくさなどの体験をすることにより、歳をとるとはどういうことかを想像します。

高齢になると筋力や視力、聴力等が弱くなるために日常生活に困りごとが増えますが、体験後の振り返りを通して、できることもたくさんあるということを知り、高齢者の知恵や経験に対する感謝、尊敬の気持ちを分かち合います。



©小春

No.10 命の授業 講師：助産師



出産の模擬体験やスライド、映像を使って、ひとりひとりのかけがえのない命の尊さを学びます。生命の誕生を模擬体験する活動からは、親の愛情を受けてこの世の中に生まれてきたことを実感し、感動的な場面に立ち会う経験をします。

講師は、県助産師会から派遣されます。5,000円以上の謝礼をご用意いたします。

<講師からのメッセージ>

助産師として長く出産の現場に携わってきた経験から、私が出産の現場で得た「いのち」についての学びを子どもたちと共有し、心身の発達途上である時期から、いのちについて気づき考えてもらいます。

自分のルーツである誕生のお話は、どんな子どもたちも目を輝かせて聞いてくれます。

未来を担う子どもたちに生命の尊さを感じてもらうとともに、楽しく興味をもってもらえるよう授業づくりに努めています。



No.11 マイ・タイムライン学習（福祉と防災） 講師：滋賀県危機管理室

大雨や台風の発生は事前に予測できるので、あらかじめマイ・タイムラインを作っておくと、余裕を持った避難行動につながり、逃げ遅れを防ぐことができます。自分自身の生活条件や住まいの立地条件、災害リスクなどを踏まえて一人ひとりに合った避難の準備から避難完了までの行動計画となる「しがマイ・タイムライン」を作成します。

対象は小学4年生～大人まで、小学校の授業で活用する場合は、45分授業2コマを想定しています。

日程調整や資料手配等の打合せが必要になるため、下記の連絡先までご相談ください。

電話 077-528-3438
 （知事公室 防災危機管理局 防災対策室）
 滋賀県ホームページ
 （「しがマイ・タイムライン」で検索！）
 メール as0002@pref.shiga.lg.jp



（しがマイ・タイムラインに関する県 HP）

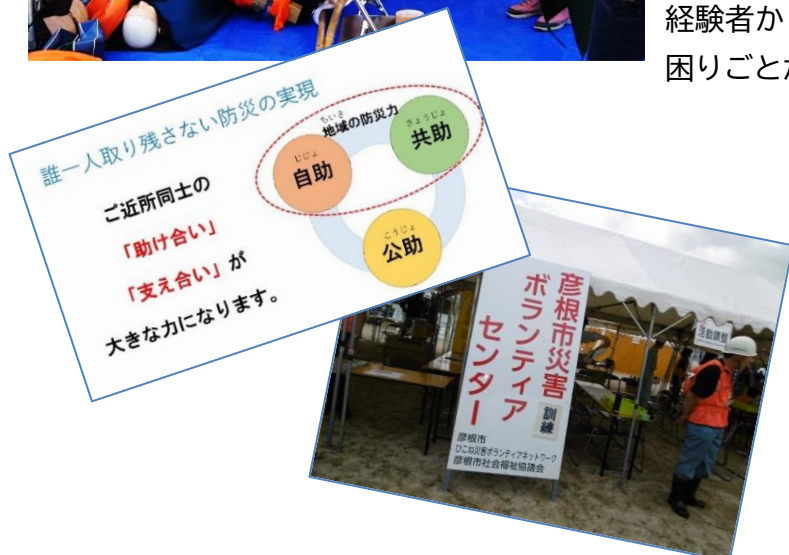


No.12 災害に強いまちづくり（福祉と防災） 講師：彦根市社会福祉協議会



災害ボランティアセンターとは、災害ボランティアの活動を円滑に進めるために被災地に設置される拠点のことで、ボランティアの人たちが円滑かつ効率的に活動を行えるように調整する機関として、社会福祉協議会やNPO、ボランティア団体等で運営されます。災害時の避難行動や避難所運営、減災について、災害ボランティアセンター派遣経験者から体験談を聞いた後、災害時にはどんな困りごとがあるかを想像し、話し合います。

家族や近所で助け合えることや、日頃の生活の中で準備しておくことなど、自分たちにできることはどんなことかについて、みんなで考えます。



No.13 赤い羽根共同募金の話

講師:彦根市社会福祉協議会



私たちの住むまちに暮らすみんなの幸せをめざして、みんなでちょっとずつ助けあう、それが「赤い羽根共同募金」です。

赤い羽根共同募金運動の成り立ちや使いみちについて学び、自分たちの暮らしとどのように結びついているのか、一緒に考えましょう。



No.14 発達障がい、精神障がいの理解

講師:認定 NPO 法人サタデーピア

集団になじめない、人間関係が苦手など、誰もが経験する可能性のある「生きづらさ」について、当事者やご家族から体験談を聞いたり、支援専門職の立場から精神保健福祉の基本的な情報提供やソーシャルスキルトレーニング (SST) の基礎の研修をします。テーマについては事前に講師と打合せを行い、相談しながら決めます。

3,000 円以上の講師謝礼をご用意いたします。

<講師からのメッセージ>

サタデーピアは精神疾患や精神障害、発達障害などを経験した当事者や家族、支援専門職、市民が地域のメンタルヘルスの向上をめざしてともに活動している認定 NPO 法人です。偏見や先入観を持たれがちな障害への正しい理解をもつことや「心の不調」の予防、対処法を身に着けることを大切に考え、「ひろげよう！ 優しい気持ち 思いやり」をモットーに活動しています。当講座では当事者、家族の体験談を含む精神保健福祉の基本的な知識の研修や、怒りや不安といった感情のセルフコントロールの練習、コミュニケーションスキルのトレーニング、傾聴を始めとしたピアカウンセリング講座などをテーマとします。



No.15 ユニバーサルスポーツ 講師:彦根市スポーツ推進委員協議会

「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」楽しめるスポーツを通して、相手と競い合うだけではなく、こどももおとなも、障がいがあってもなくても、みんなで一緒に取り組む体験をします。

ボッチャ、スローイングビンゴ、スーパーカロムなど、いくつかメニューがありますが、それぞれ準備物や場所の条件等が異なりますので、ご希望をお聞きし、相談しながら決めていきます。



ボッチャ

<講師からのメッセージ>

『健康で心豊かな生活をめざし、ニュースポーツの楽しさを発信しよう』をスローガンに、「楽スポ」と称して老若男女問わず、ニュースポーツの紹介、体験を中心に生涯スポーツを市民のみなさんに知っていただきたく積極的に推進しています。我々がめざすのは、単に平均寿命を延ばすのではなく、病気などをもたない健康寿命を延伸できる元気な体づくりをめざすことを目的に軽スポーツを主に紹介するコーディネート役を多くの仲間と活動することです。健康寿命世界一をめざそう!!



スーパーカロム

No.16 施設見学、その他


高齢者デイサービス、老人福祉センター、放課後等デイサービス、保育園等の福祉施設見学を通して、自分たちが暮らす地域社会には多様なひとたちが共に生きていることを学びます。今、自分たちができることや、みんなが安心して暮らせるまちにするにはどうしたらいいかについて、さらに学習を深めるきっかけをつくります。

その他、ボランティア体験活動なども含めて、どのようなことについて学びを深めたいかをお聞きしながら、みなさんと一緒に福祉教育のメニューを拡充していきますので、お気軽にご相談ください。



“みんな違って みんないい”
一人ひとりが かけがえのない命！

2023年(令和5年)3月発行

 社会福祉法人彦根市社会福祉協議会
地域づくりボランティアセンター

〒522-0041 彦根市平田町 670 彦根市福祉センター別館 1階
【TEL】 (0749) 22-2821 【FAX】 (0749) 22-2841
【MAIL】 hikoshachiiki@mirror.ocn.ne.jp



彦根市社協
ホームページ

※本誌内の文章・画像等の無断転載はご遠慮ください。



本誌は「赤い羽根共同募金」に寄せられた皆さまのお気持ちでつくられています。